

こたまコラム (矢作新報社への寄稿内容)

新型コロナウイルスについては、再流行リスクなど、まだまだ予断を許さない状況下ではありますが、緊急事態宣言が解除され、地域社会も少しずつではありますが、賑わいを取り戻しつつあります。

また、学校も3ヶ月ぶりに再開となり、やっと子供さん達の元気な姿を見掛ける事が出来るようになり、長期間に渡る不要不急の外出・移動の自粛や休業要請への協力など、感染拡大防止に向け、多くの皆様のご協力に対し、私からも厚く御礼申し上げます。

今後は密集・密接・密閉といった3密の回避やマスク着用・手洗いの徹底などの「新しい生活様式」の中で、地域社会が確実に回るような施策を推し進める事が重要であり、中小企業の資金ぶり支援や教育・子育て支援など、あらゆる分野において支援策の充実が図られていますが、行政支援だけでは限界があります。

そして、この様な厳しい状況下において真っ先に思い返されるのが、リーマンショック後に豊田商工会議所様が中心となって進められた「とよた元気プロジェクト」ですが、このプロジェクトは今ではお馴染みとなった「WE LOVE とよた」のロゴマークのもと、自動車をはじめとした機械製品も含め、地産地消や市内での消費喚起、更には市内の魅力発信と、地域が一丸となって「まちの価値と資源活用」に取り組み、見事に地域経済を復活させた好事例があります。

今回はリーマンショックや東日本大震災以上の厳しい状況に陥っていますが、「とよた元気プロジェクト」同様に、地域一丸となって沈滞ムードを払しょくするとともに、更には最新のIT技術を活用した新たなビジネスモデルを構築する事により、この難局を乗り越えて行きましょう。



愛知県議会議員

こ た ま よ し か ず

樹神 義和 